

門前町・池上の玄関口である池上駅の駅舎改良および駅ビル開発計画が始動

まちの魅力を発信し、池上線の象徴となる新しい駅が2020年に誕生

東京急行電鉄株式会社

当社は、池上線池上駅において、「住みたい」「訪れたい」魅力的なまちづくりの実現に向け、駅舎および駅ビルの開発計画（以下、本計画）に本年6月から着手します。開業は2020年の予定です。

池上エリアのまちづくり機運の高まりを受け、駅利用者の安全性および地域の利便性向上に向け、駅舎の改良を行うとともに、上層階は駅ビルとして店舗や生活支援機能を導入します。また、池上本門寺などの観光玄関口としての魅力向上に向け、門前町の趣を感じさせる外観を計画し、エリア活性化につなげます。

駅舎の改良にあたっては、現状、北側に1か所ある改札口を、橋上化し、南口を新設します。これにより、改札内の構内踏切を廃止します。駅ビルは5階建てとし、まちのさらなる発展に資する拠点を目指して、地域に求められる保育園、公共・公益施設などの生活支援施設や、店舗の導入を検討していきます。外観には、740年以上の歴史をもつ池上本門寺を中心とした門前町の歴史性をデザインに取り入れます。また、全国から約30万人が訪れ、街が明かりに包まれる、池上本門寺の「お会式（おえしき）」の万燈（まんどう）をモチーフとした行燈を灯す列柱や和を感じさせる大きな庇を駅出入口に設けるなど、駅と街の一体感を形成します。

本計画は、本年1月に大田区と取り交わした「池上駅周辺のまちづくりの推進に関する覚書」に基づき、官民が連携して推進します。駅ビルへの公共・公益施設の設置の検討のほか、本計画を契機とした将来のまちづくりに向けて協働し、継続的に取り組んでいきます。また、本計画は地域住民などが参加する池上地区まちづくり協議会により、駅改良への期待を込めて2016年10月に取りまとめられた構想案を取り入れています。

池上線沿線は、都心への利便性が良いほか、羽田空港にも近く、洗足池や戸越銀座など魅力ある観光スポットがあることから、今後、国内外からのさらなる来街が期待できるエリアです。当社は、2016年12月に地域の方の意見を参考に木造駅舎の趣を踏襲して戸越銀座駅をリニューアルしたほか、本年3月に池上エリアで「リノベーションスクール@東急池上線」を民間事業者として初めて開催し、地域の方とともに遊休資産活用を検討するなど、池上線沿線の活性化に向けた取り組みを実施しています。

今後も、2015年4月にスタートさせた当社中期3か年計画に基づき、沿線開発と不動産事業の更なる推進に向け、地域のまちづくりと協働し、魅力ある沿線の拠点を創出し、さらなる地域活性化を進めていきます。

本計画に関する詳細は別紙のとおりです。



駅外観イメージ



北側の駅出入口イメージ

以上

【別紙】

■池上駅駅舎改良・駅ビル開発 概要

- 所在地：東京都大田区池上6丁目73番2他
- 敷地面積：3,600㎡
- 延床面積：9,990㎡
- 用途：駅舎、物販店舗、飲食店舗、サービス店舗(保育所等)
- 構造・階数：鉄骨造5階建
- 着工：2017年6月
- 開業予定：2020年9月末
- 乗降客数：1日あたり35,324人(2015年度)

<計画地>



<駅改良計画概念図>

■現況



■計画



凡例
— お客さま経路

※この図面は、電車利用時のお客さまの経路を示した概念図です。

<参考>

■池上線について

1922年(大正11年)に、池上本門寺へ参拝するお客さまのご利用を目的に、蒲田から池上間の1.8kmの路線として始まりました。1928年に五反田駅まで全線開通。1932年には、五反田駅に当時ではまだ珍しい5階建てのターミナル駅を竣工しました。都心への利便性が高い生活に密着した路線ですが、池上本門寺や洗足池など、名所旧跡への交通手段にもなっており、乗降客数も2006年からの10年間で約10%増加するなど、人気が高まっています。

■「リノベーションスクール@東急池上線」

当社は、池上周辺エリアで、「リノベーションまちづくり」によるエリア活性化に取り組んでいます。

「リノベーションまちづくり」とは、就労人口の減少・地域経済の縮退などといった課題に対し、空き家などを活用することでエリアを活性化する取り組みで、近年、一部の地方自治体で導入されはじめています。

池上周辺エリアは、古くから住宅と工場が共存する「住工調和」の文化や、地域密着型の活気ある商店街など多様な魅力を有する一方で、近年では、工場数の減少に伴う就業人口数の減少や、高い空き家率といった課題もあります。池上周辺エリアの特性と親和性が高い「リノベーションまちづくり」を推進することで、より地域社会と密着したエリア活性化を目指しています。

本年3月3日～5日に実施した「リノベーションスクール@東急池上線」では、全国から集まった29名の参加者が、実際の不動産物件などを対象にリノベーション事業のプランをつくり、当該物件オーナーへの提案を実施しました。

具体的には、温泉施設の2階宴会場の“まちの劇場”(朝・昼＝子どもやママ友向け、夜＝ジャズ演奏や映画上映など)としての活用、公園内の使われていない資材置き場の“木工カフェ”活用、寺院敷地内の納屋のコミュニティカフェ・コワーキングスペース・レンタルスペースの複合用途活用、駅前商店街空き店舗のワークショップスペース・立ち寄りカフェ&バーとしての活用などの提案がまとめられました。



ユニットワーク中の様子



提案プレゼンテーション風景



「いい街 いい電車 プロジェクト」とは、選ばれる沿線日本一に向け、沿線住民・利用者と近くて良い関係「近イイ関係」をめざすプロジェクトです。

駅がもっと身近になる活動を通して、愛着のある「いい街」、いつでもどこでも安全に移動できる、安心・快適な「いい電車」をめざし、積極的に活動します。